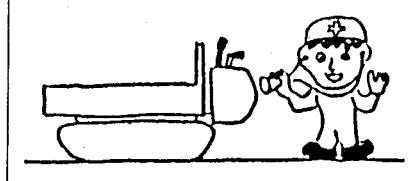
取　扱　説　明　書

ＢＦＫ８０３

No.3642 6501 000

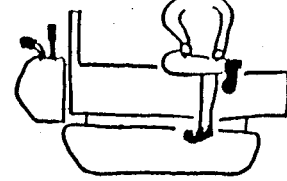
安全上の注意

安全管理

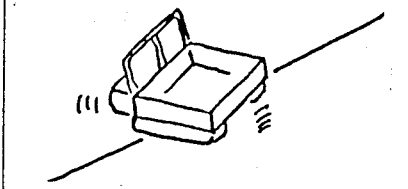
始業点検の実施!!

運転の前に始業点検を確実に励行し、異常箇所は直ちに補修してください。

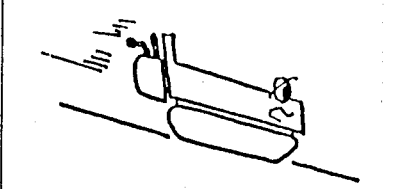
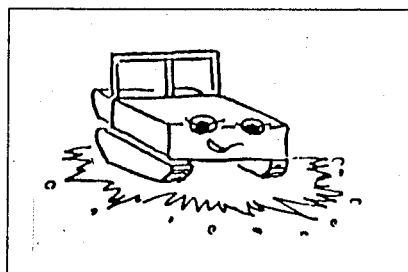
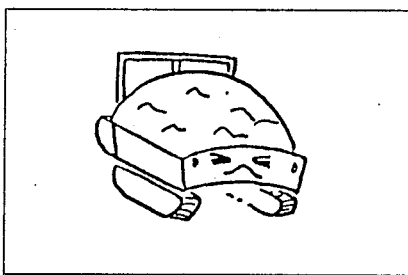
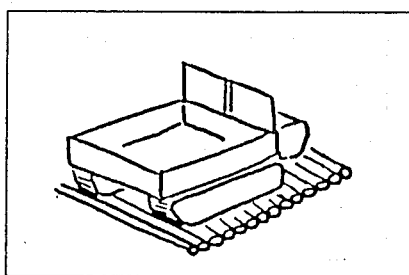
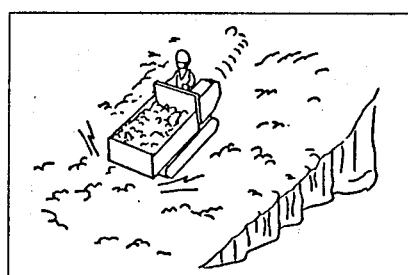
火災防止!!

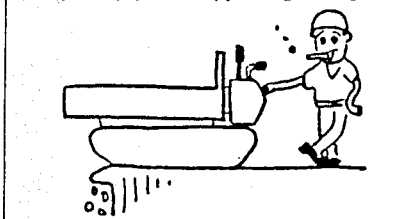
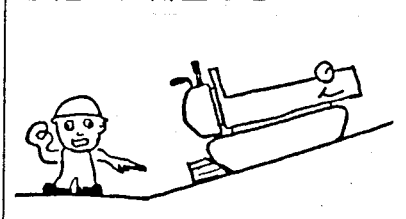
燃料、油脂の取扱い時、バッテリーの充電中や本機の保管場所には火気を近づけないでください。

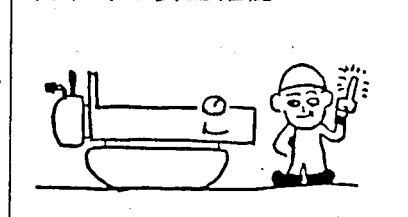
同乗禁止!!

この車両は１人乗りです。急旋回、重心の移動等により危険ですから運転手以外乗らないでください。

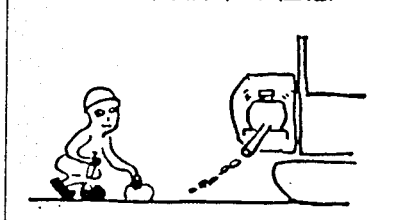
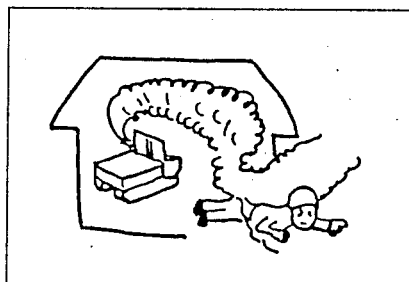
作業中の注意

傾斜地の横断はさけよう

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面をよこぎると危険です。また急傾斜地ではサイドクラッチレバーを操作しないでください。やむを得ない時は逆旋回に注意して素早く確実に操作してください。

スリップに注意!!

降坂時は変速レバーを低速に入れ、エンジンブレーキを必ず使用してください。

軟弱地盤では、低速で走行し急加速、急旋回および停車はしないでください。

走行速度は、走行時の勾配、路面の状況および荷重に応じた安全速度で走行してください。また過積での走行はしないでください。

木橋等を渡る時は、本機の自重と積載重量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で静かに通過してください。

15°～20°の傾斜地では、積載量を400kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地ではなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は空車状態とし、山側にて運転操作をしてください。

駐停車時の注意

駐停車する場所は足場のよい平坦地に止め危険な場所は避けましょう。

やむなく坂道で駐車する時は歯止めをかけてください。

駐車時の安全確認!!

駐車時は、駐車ブレーキをかけエンジンを停止してキーを忘れずに抜きましょう。
（セルスタート式のみ）

点検・整備時の注意

エンジン回転中は整備を行わないでください。

室内でエンジン運転する時は排気ガスによる中毒防止のため換気をよくしてから作業を行ってください。

目　次

このたびは本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、製品の正しい取扱い方法と点検整備を説明してあります。
安全な運転および製品の性能を十分発揮させるため、御使用前には必ずお読みください。
なお、仕様変更などによりこの取扱説明書の内容が一部、実機と異なる場合がありますので御了承ください。

印は、運転・整備作業時に作業者の安全上、特に重要な部分であり必ず守ってください。

サービスと保証について

本製品には保証書交付申請書がついていますので、必要事項を記入して郵送してください。
なお、御使用中の故障・御不審な点およびサービスに関する御用命は、お買い上げいただいた販売店または当社営業にお気軽に御相談ください。
その際、商品型式と製造番号、搭載エンジンの型式名を併せて御連絡ください。

本製品の保証期間は購入後６ヶ月間となっています。

注意：「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合および仕様を超えた使用・改造等によっての故障・事故については、保証の対象外となります。

本製品の規制について

本製品は、道路上での運転はできません。
道路上での運転による事故および違反につきましては責任を負いかねます。

注意：道路以外でも人や車が自由に出入りできる場所も道路とみなされます。
椎茸原木用荷台仕様車以外の仕様車は農用運搬車として製造したものです。農業用以外には使用しないでください。

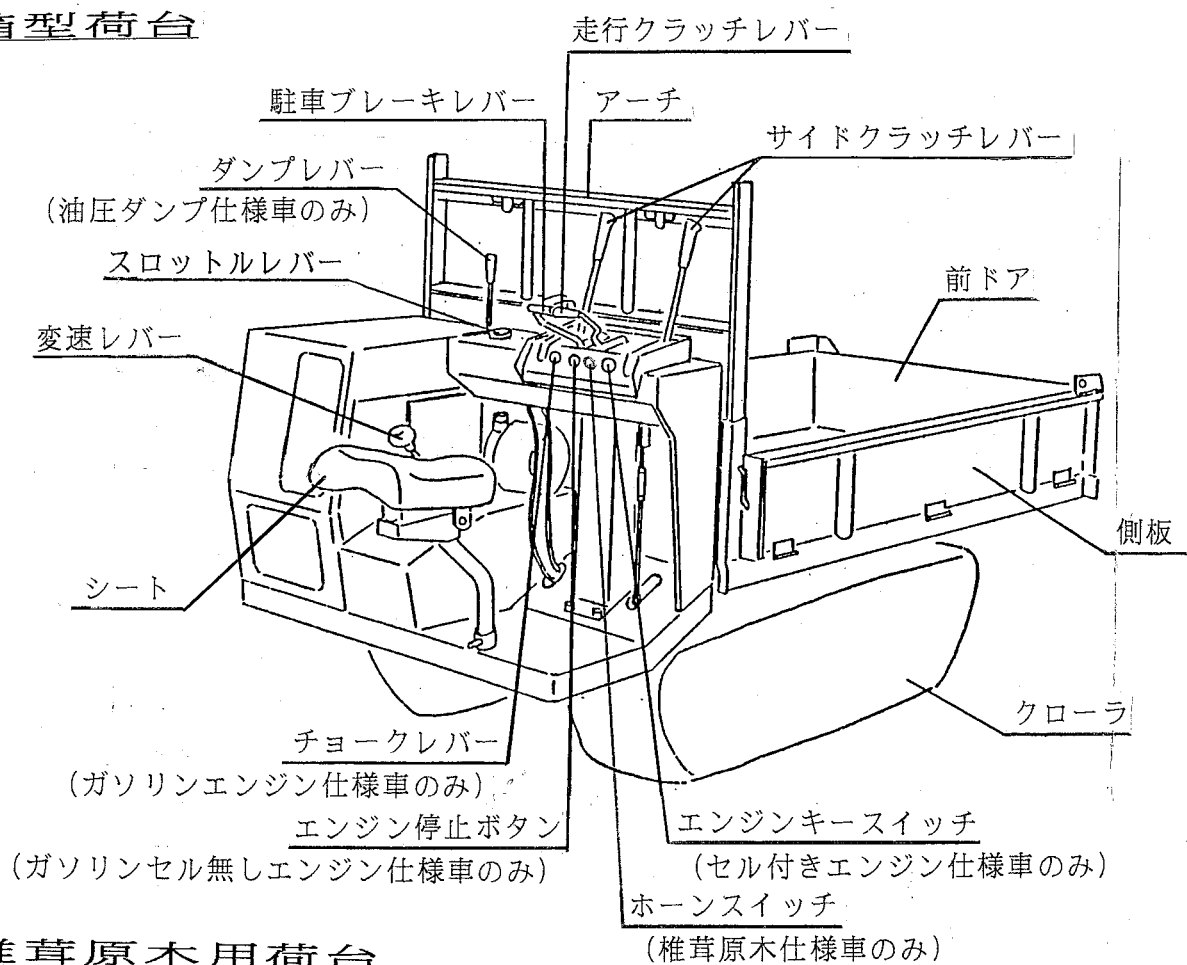
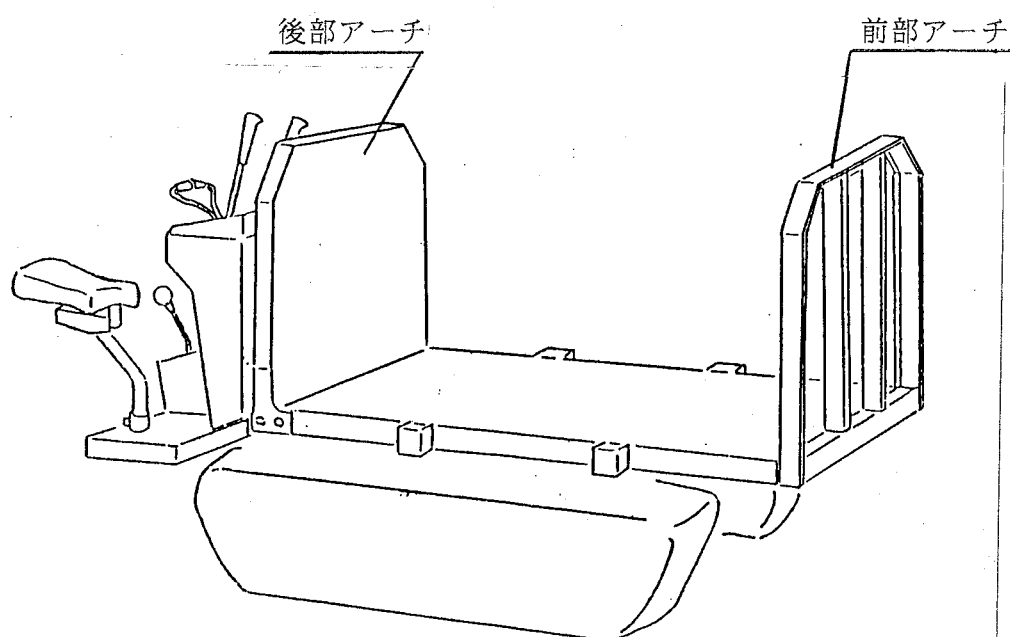
事業者の皆様へ

椎茸原木用荷台仕様車の月例点検・年次点検記録は３年間保存してください。
労働者を新たに林内作業車を使用する集材作業に就かせる場合には、あらかじめ関係労働者に対して、安全教育を実施してください。
（椎茸原木用荷台仕様のＢＦＫ８０３は林内作業車に該当します）

運転装置の説明

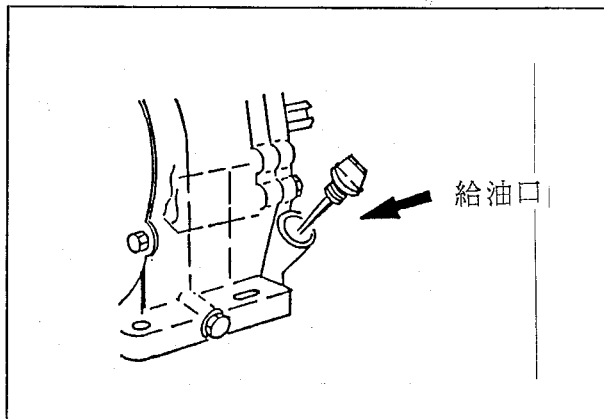
各部の名称

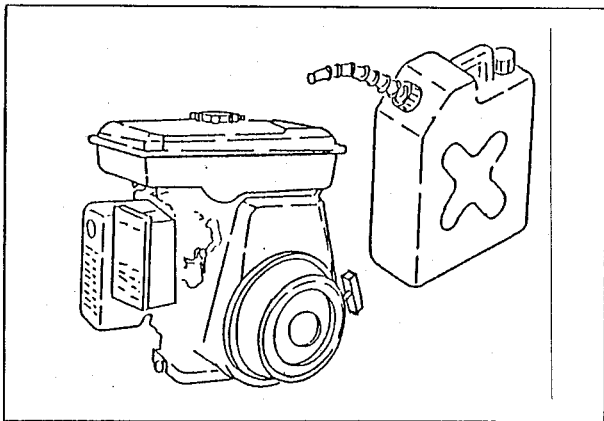
箱型荷台

走行クラッチレバー
駐車ブレーキレバー
アーチ
サイドクラッチレバー
ダンプレバー
（油圧ダンプ仕様車のみ）
スロットルレバー
前ドア
変速レバー
側板
シート
クローラ
チョークレバー
（ガソリンエンジン仕様車のみ）
エンジン停止ボタン
（ガソリンセル無しエンジン仕様車のみ）
エンジンキースイッチ
（セル付きエンジン仕様車のみ）
ホーンスイッチ
（椎茸原木仕様車のみ）

椎茸原木用荷台

各部のはたらき

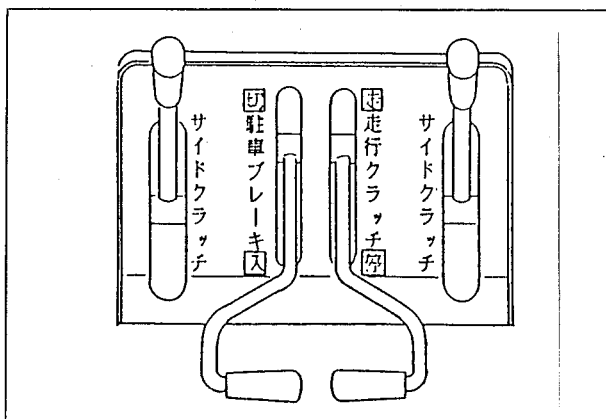
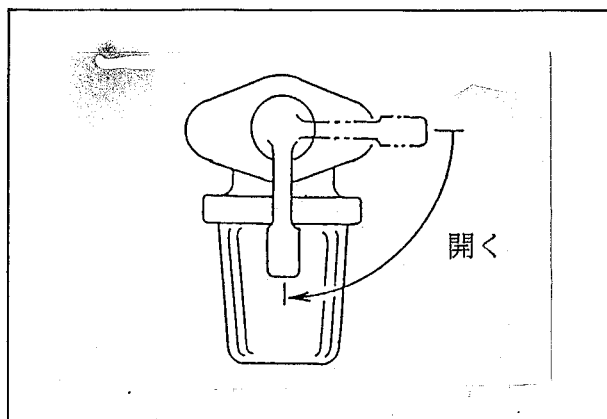
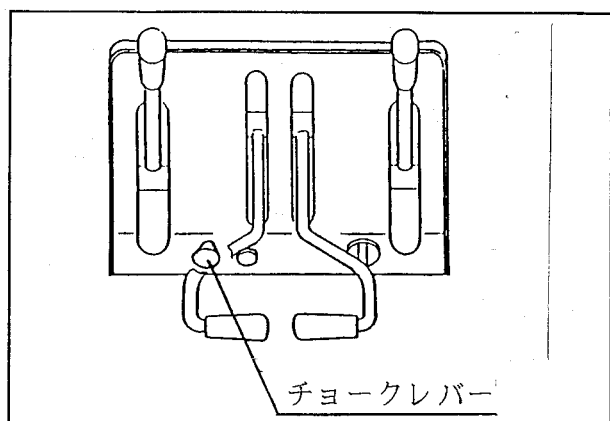
☆チョークレバー	・レバーを引くとチョークが作動します。
☆スロットルレバー	・エンジン回転数の増減を行います。
☆サイドクラッチレバー	・方向を変える時に使用します。 車体はレバーを引いた側へ曲がります。 また、左右同時にレバーを引くとその場で急停止します。
☆走行クラッチレバー	・レバーを前方に倒すと「走（発進）」の状態、後方に倒すと「停（停止）」の状態になります。
☆駐車ブレーキレバー	・レバーを前方に倒すと「切（ブレーキ解除）」の状態、後方に倒すと「入（ブレーキ作動）」の状態になります。
☆変速レバー	・走行速度の選択に使用します。 変速は走行クラッチレバーを「停」にして、車体が停止した状態で行ってください。
☆ホーンスイッチ （椎茸原木仕様のみ）	・ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。 走行する時の警報・作業の合図等に使用します。
☆エンジンキースイッチ （ｾﾙ付きｴﾝｼﾞﾝ仕様のみ）	・エンジンを始動させたり、停止させる時に使用します。
☆エンジン停止ボタン （ｶﾞｿﾘﾝｾﾙ無しｴﾝｼﾞﾝ仕様のみ）	・ボタンを押すとエンジンは停止します。
☆ダンプレバー （油圧ﾀﾞﾝﾌﾟ仕様のみ）	・荷台の「上昇」、「下降」を行う時に使用します。

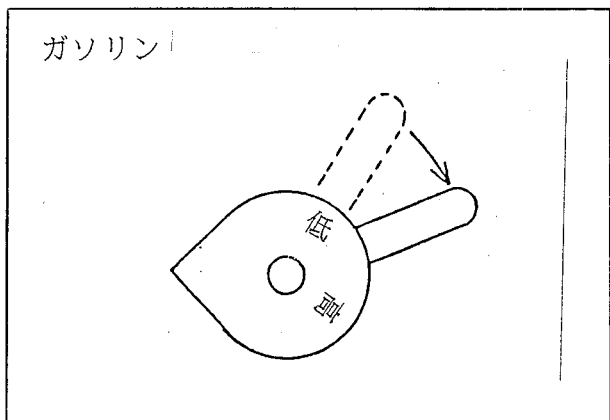
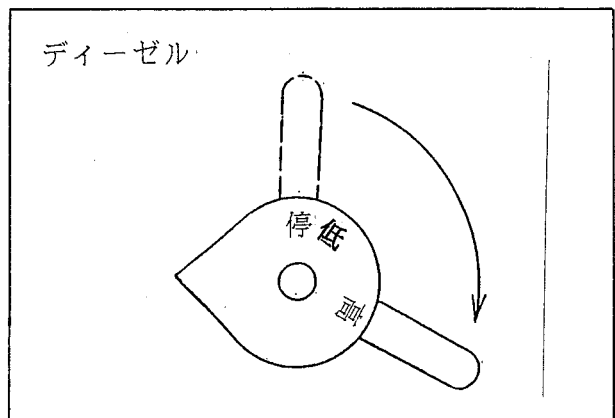
上手な運転のしかた

始動の準備

エンジンオイルを確認してください。
オイルの量、および種類は付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。

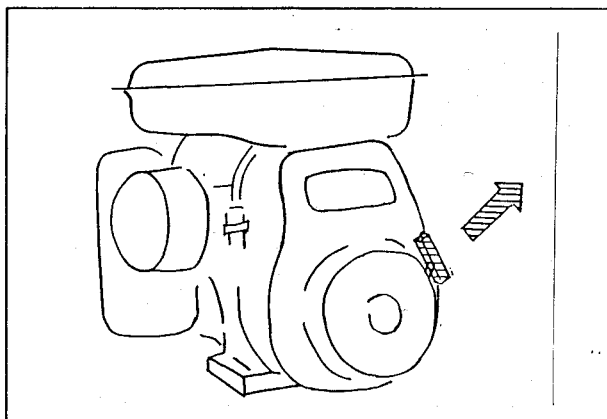
注意
ロビンディーゼルエンジンＤＹ３５のオイルの量は１３ページの**注意「ＤＹ３５のエンジンオイル量について」**の項目を御覧ください。

ガソリンエンジンにはレギュラーガソリン、ディーゼルエンジンの場合は軽油を入れます。
燃料タンクの容量については付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。

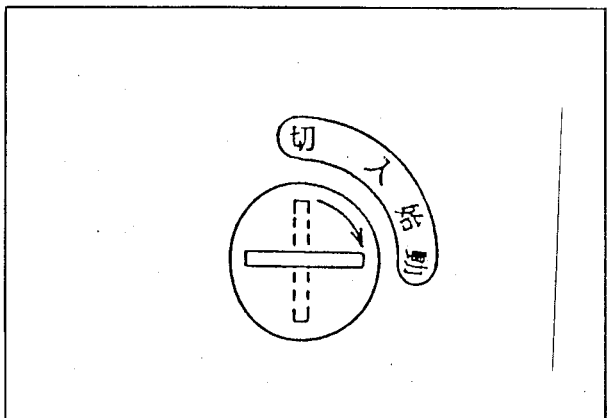
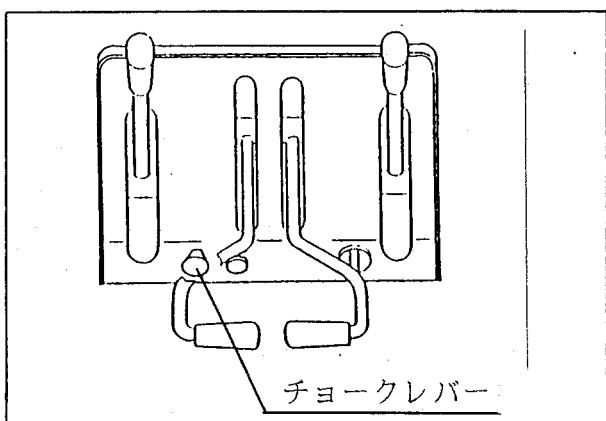
ガソリンを入れる時は必ずエンジンを停止させてください。
エンジンが熱い時は燃料をこぼさないよう注意してください。

始動のしかた

走行クラッチレバーが「停」に、駐車ブレーキレバーが「入」になっていることを確認します。

燃料コックを開きます。

チョークレバーを引き、チョーク弁を閉じます。
（ディーゼルエンジンにはありません）

注意
エンジンが暖まっている時はチョークレバーを引く必要ありません。

スロットルレバーを「低」と「高」の中間の位置にします。

ディーゼルエンジンは「高」位置にします。

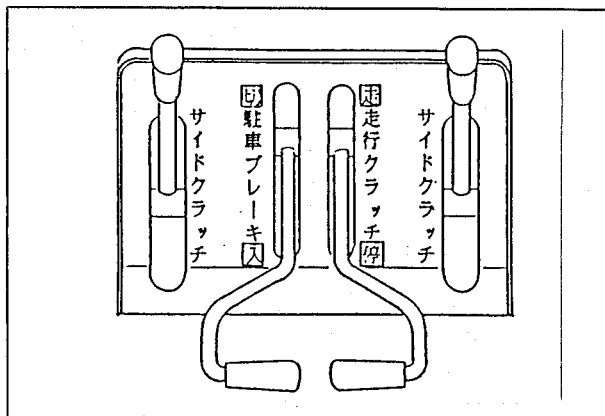
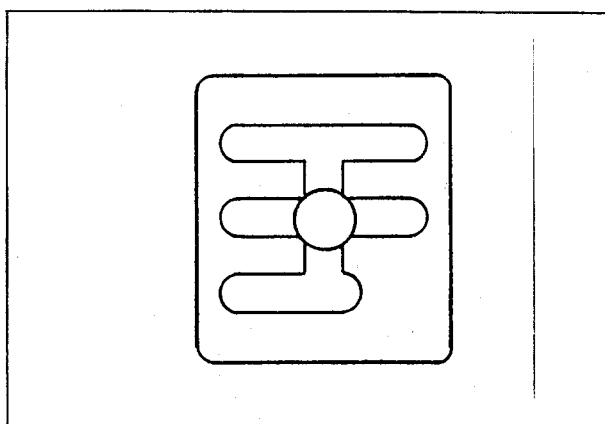
エンジンの始動方法は、エンジンの種類により異なりますので御注意ください。

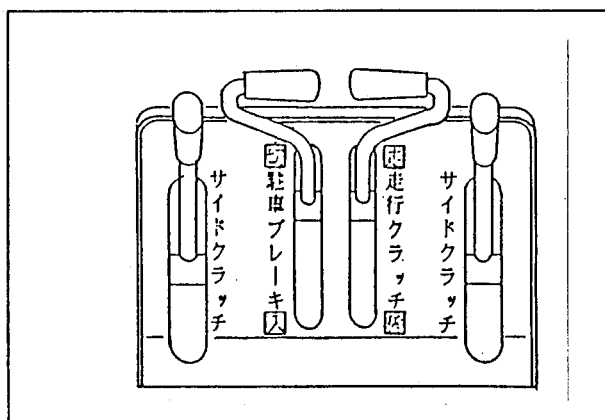
リコイルスタータ式

スタータノブを握り勢いよくひっぱります。
エンジンが始動しだしたらスタータノブをゆっくりと元の位置に戻してください。

セル付きエンジン

エンジンキースイッチを「始動」位置に回し始動させます。始動しだしたら直ちにキースイッチから手を放してください。
セルモータを５秒程度回しても始動しなければ、１０秒以上休んで再始動してください。

エンジン始動後はチョークレバーを戻してください。
（ディーゼルエンジンにはありません）

注意

(1)エンジン回転中に、キーを「始動」位置にするとセルモータが破損することがありますので、絶対にしないでください。
(2)エンジン始動後、負荷をかけずに１～２分間位、低速側で暖気運転してください。

運転のしかた

走行クラッチレバーが「停」の位置にあることを確認します。

前進　３段　　後退　２段
変速レバーを所要変速位置に確実に入れます。

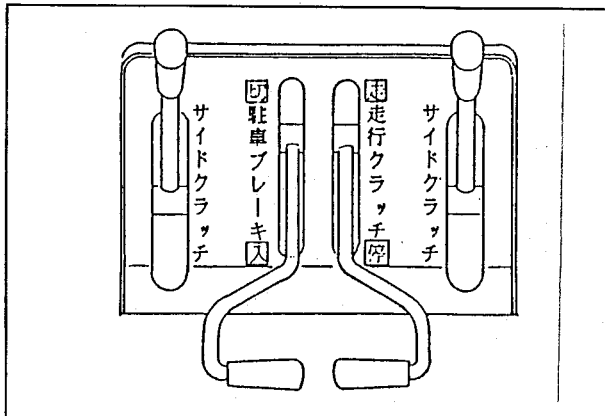
変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。
ギヤが入りにくい時は、無理に入れずに走行クラッチレバーを「走」へ少し動かし確実にギヤチェンジを行ってください。

駐車ブレーキレバーを「切」の位置へ倒し、走行クラッチレバーを「走」の位置に徐々に入れると発進します。

旋回しようとする側のサイドクラッチレバーを手前に引くとその方向へ旋回します。
※旋回半径は、サイドクラッチレバーの操作力により任意に変化させることが可能です。
軽く引けば緩旋回、強く引けば急旋回になります。

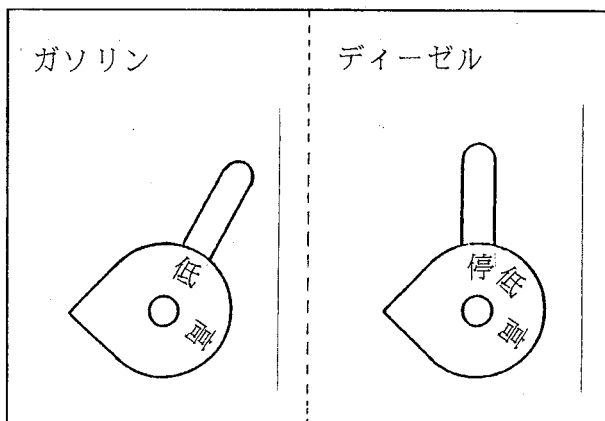
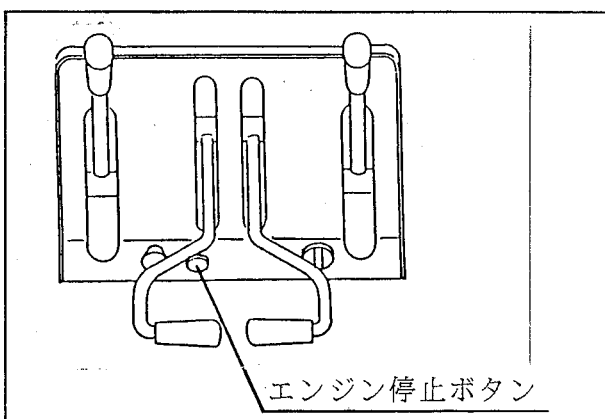
走行時の注意

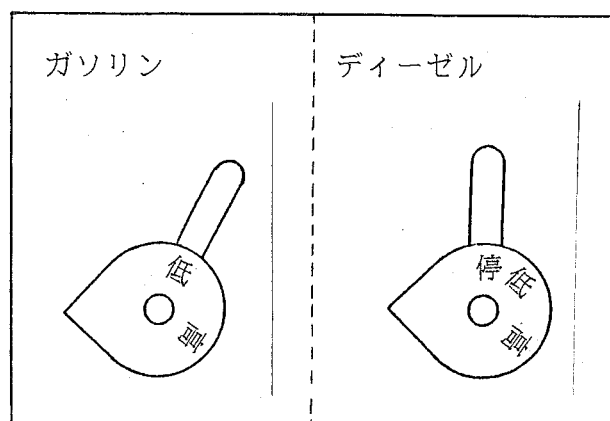
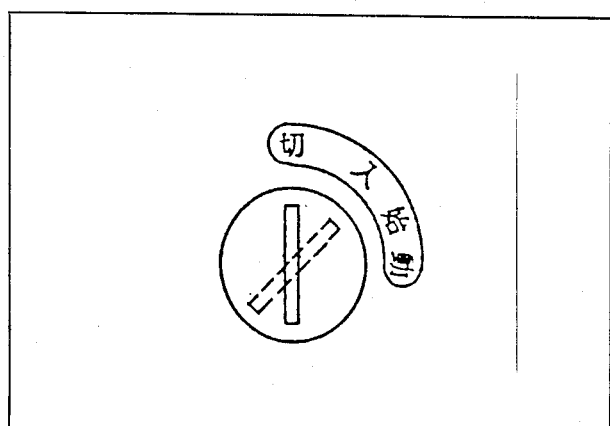
(1) 発進する時は、周囲の安全を確認して発進してください。
(2) 急激な発進および制動はなるべくお避けください。
(3) 急斜面ではサイドクラッチレバーの引き具合で、車体がレバーを引いた方向と逆に挙動することがありますので注意してください。
(4) 走行の際に、転倒または転落のおそれがある時は誘導する人を配置し、その人に本機を誘導させ走行の安全を確保してください。

(5) 河川敷、砕石地盤上、鉄筋、丸太上での使用はできるだけ避けてください。
ゴムクローラの寿命が著しく短くなります。

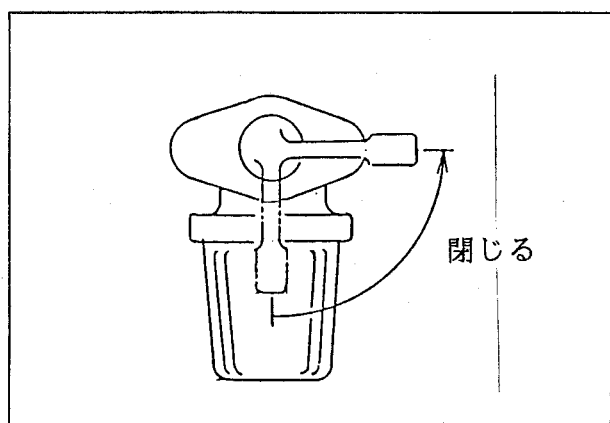
停止のしかた

走行クラッチレバーを「停」の位置へ、駐車ブレーキレバーを「入」の位置へ操作し車体を確実に駐車させます。

緊急の場合は両レバーを同時に手前に引いてください。車体は急停止します。
なお、傾斜地では車体が浮き上がることがありますので十分注意してください。

リコイルスタータ式（セル無しエンジン）

スロットルレバーを「低」または「停」にします。
（ディーゼルエンジンは「停」にするだけで停止します）

エンジン停止ボタンを押します。
（ディーゼルエンジンにはありません）

セル付きエンジン

スロットルレバーを「低」または「停」にします。

キースイッチを「切」にします。
キーを抜きます。

注意

ディーゼルエンジンはスロットルレバーを「停」にした時エンジンが停止しますがその際、キースイッチを切ることを忘れないでください。
バッテリー上がりの原因になります。

最後にリコイルスタータ式およびセル付きエンジンのいずれも燃料コックを閉じます。

ダンプ操作

①エンジンを始動させます。
②ダンプレバーをステッカーに示す「上昇」の方へ倒します。
③荷台が上昇の上限まで上がると異音がしますので、すばやく油圧レバーを中立に戻します。
④荷台を下降させる時はダンプレバーをステッカーに示す「下降」の方へ倒します。

・ダンプの「上昇」、「下降」は必ずエンジンをかけた状態で行ってください。
・荷台を上昇させたままの作業、または荷台下の点検をする場合は危険防止のため、荷台落下防止棒にて確実に支えてください。

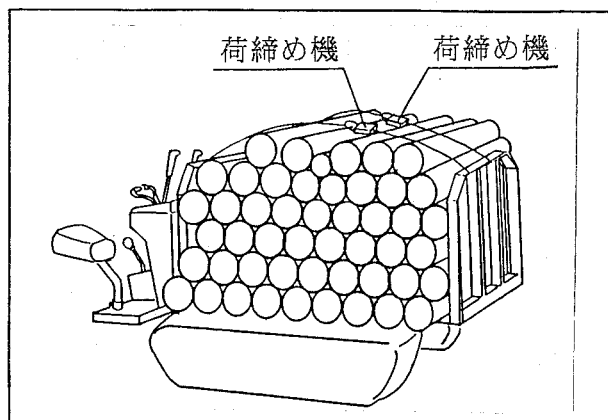
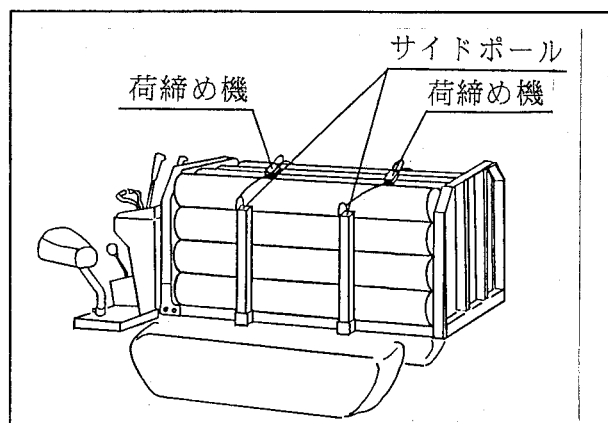
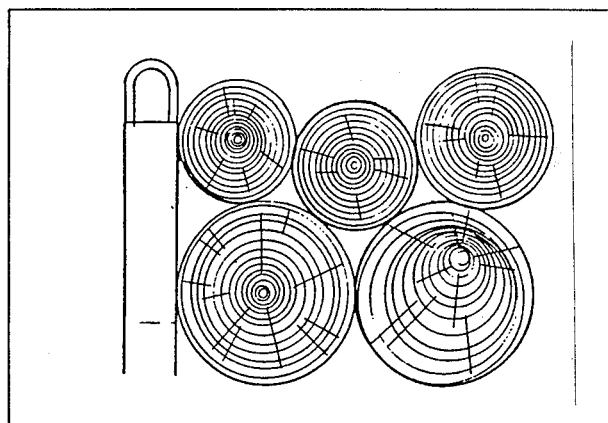
走行路の確保

(1)走行路は本機が安全に走行できる幅員とし、少なくとも1．1m以上とし、走行路の曲線部は必要に応じて幅員を大きくしてください。
(2)斜面を横断する走行路は切取り路面を原則とし、盛土路面については必要な補強措置をとってください。
(3)走行路の勾配は、20°以下としてください。
(4)木橋等は、本機の走行に十分耐えられる材料および構造としてください。
(5)走行路は、なるべく凹凸のないよう整地しておくとともに根株、岩石等は走行に支障のないようにあらかじめ除去してください。
(6)土場は土砂の崩壊、落石、流水等のおそれのない場所を選定し、本機およびトラックの方向転換が安全にできる広さを確保してください。
(7)走行路を確保するための作業を行う時は、作業現場の崩壊および浮石等の落下の防止に十分配慮してください。

本機の移送

(1)本機の積卸しをする場合は、平坦で堅固な場所において行ってください。
(2)道板、盛土、仮設台等を使用する時は本機の転倒、転落による危険を防止するための措置をとってください。

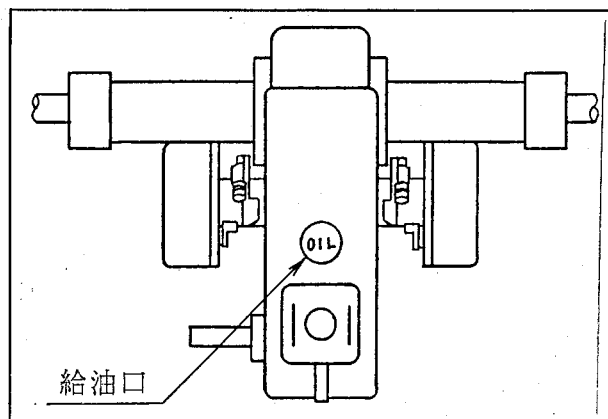
積載のしかた

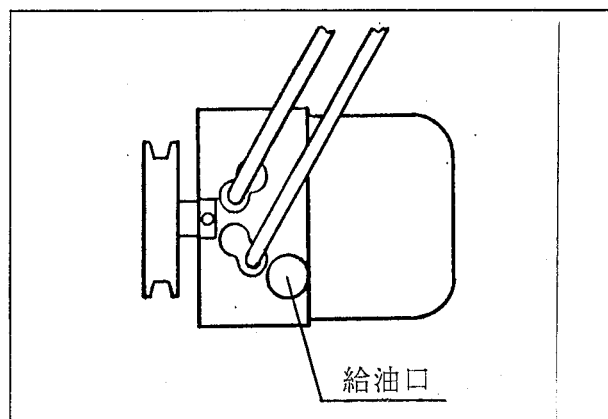
椎茸原木仕様

積み荷は荷締め機等で締め込んでください。

縦積みの場合、サイドポールを使用してください。またこの場合も荷締め機等で締め込んでください。

左図のようにアーチおよびサイドポールに接した最上部の材の直径の約３分の１以上がアーチおよびサイドポールの先端からでないように積み込んでください。

(1)荷縛りの解き外しは、材の転落のおそれのある区域に人がいないことを確認してから行ってください。
(2)荷卸しは荷の上部から順に行い、中抜きはしないでください。
(3)荷卸し中は、材の転落のおそれのある区域には立ち入らないようにしてください。

本製品の簡単な手入れと処置

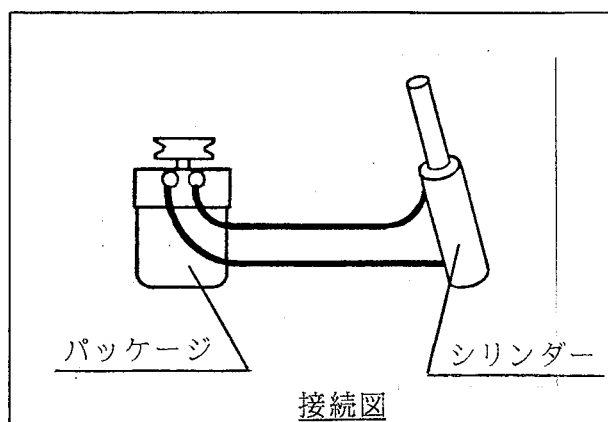
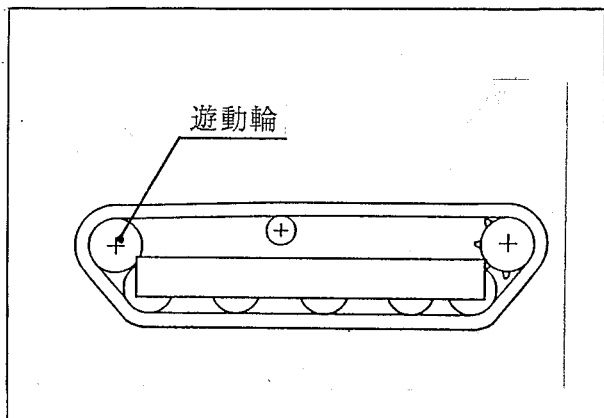
給油・注油・給脂

給油がおろそかになりますと、回転が円滑に行われないばかりでなく故障の原因となって機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。

☆ミッション
ギヤオイル　２．０ℓ
API：GL４またはGL５
SAE：#８０

・ミッションオイルの交換
初回は５０時間目。
２回以降は５００時間毎。

☆パワーパッケージ
タービン油　約１．７ℓ
#９０
車体を水平にして荷台を下降させた状態で、検油棒の先端から５㎜位までオイルが付着するよう入れてください。

注意

・オイルが減りますとホースおよびシリンダー内に空気が入り、ダンプの上昇が悪くなりますので１００時間毎にオイルの点検を行ってください。
・エンジンを始動し荷台を上昇させると、最初はエアーが入っていますのでノックしますが、２～３回繰り返しますとよくなります。
・このシリンダーは複動式ですのでホースの接続を間違いますと荷台がダンプしなかったり、故障の原因になりますので御注意ください。

接続図

☆遊動輪

遊動輪の給脂は半年に１回行ってください。（購入後、半年間は給脂不要です）
手動式のグリースポンプを使用の場合は５～６回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら直ちに給脂を中止してください。エアー式のグリースポンプを使用の場合は２～３秒で十分です。

注意

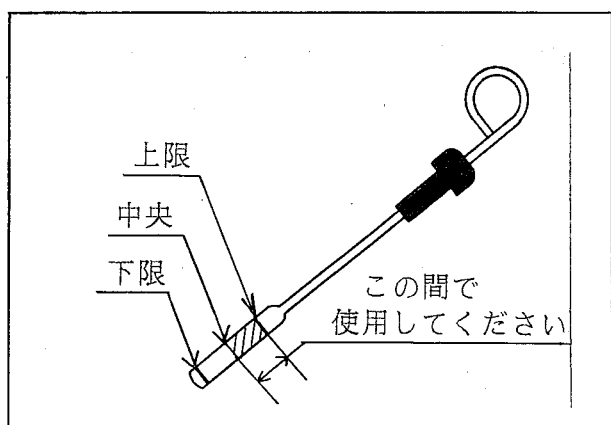
(1)グリースを入れすぎると故障の原因となりますので御注意ください。
(2)各摺動部にはグリース塗布、または注油を行い焼き付きやサビを防止してください。
(3)転輪、支持転輪は無給脂式ですので給脂の必要はありません。

＜注油箇所＞

①サイドクラッチレバー支点
②走行クラッチレバー支点
③駐車ブレーキレバー支点
④走行テンションアーム支点
⑤油圧テンションアーム支点
（ダンプ仕様のみ）
⑥中間テンションアーム支点

＜給脂箇所＞

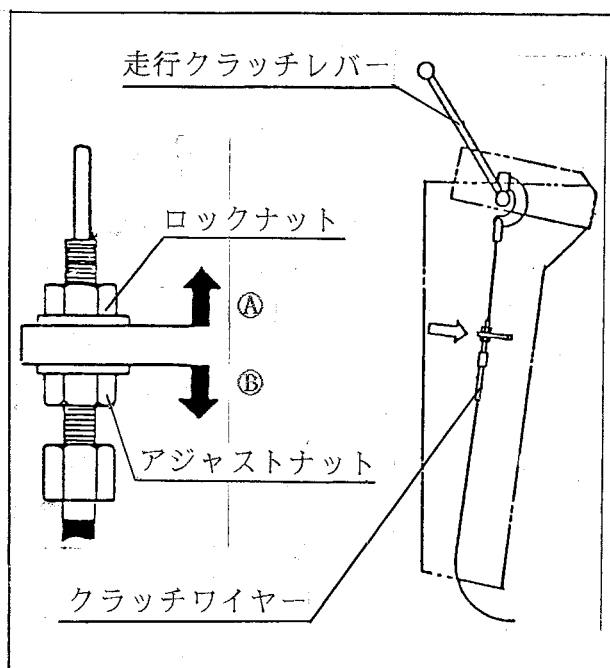
①遊動輪
②サイドクラッチロッド支点

上限
中央
下限
この間で
使用してください

☆エンジン

オイルの量および種類は、付属のエンジン取扱説明書を御覧ください。
ロビンディーゼルエンジンＤＹ３５についてのみ下記の注意事項に従ってください。

注意

「ＤＹ３５のエンジンオイル量について」
オイル量は上限と下限の中央（０．８ℓ）以上、検油棒の上限までを範囲とします。オイル量が不足しますと２０°以下の坂の連続走行でもエンジンが焼き付くおそれがありますので御注意ください。

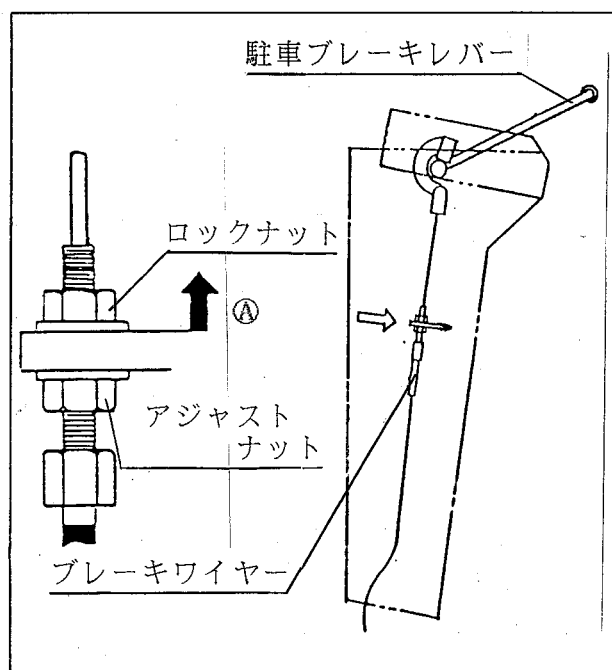
走行クラッチ調整

走行クラッチの調整は、左図のクラッチワイヤーのアジャストナットで行ってください。
要領は下記の通りです。

・**走行クラッチの切れが悪い場合**
　アジャストナットをⒷの方向へ。

・**Vベルトがすべる場合**
　アジャストナットをⒶの方向へ。

調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

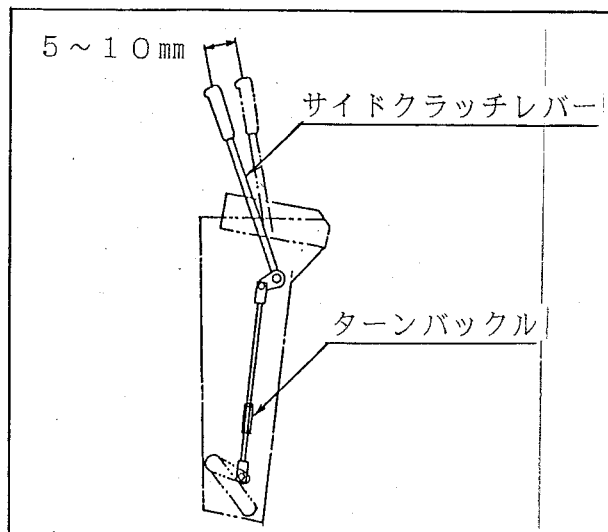
ブレーキ調整

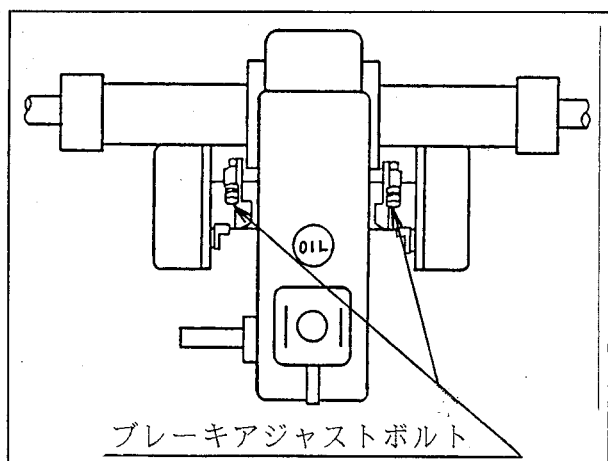
最も重要な調整にブレーキ調整があります。
少しでも甘くなったりした場合は直ちに下記の調整を行い、常に安全を心がけるようにしてください。

ブレーキ調整は、左図のブレーキワイヤーのアジャストナットで行ってください。

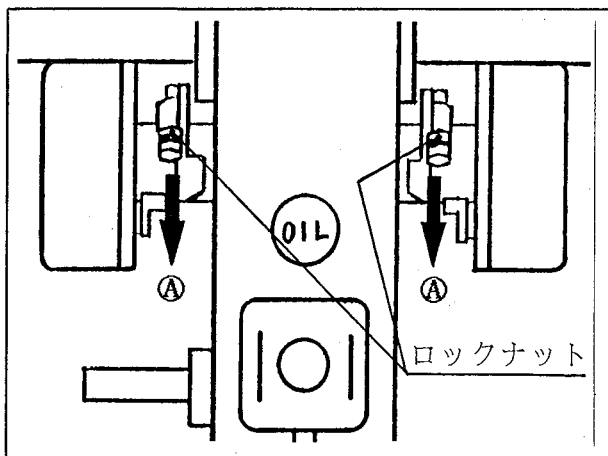
・**ブレーキのききが悪い場合**
　ロックナットを緩めアジャストナットをⒶの方向へ回転させブレーキ「入」でトランスミッションとブレーキワイヤーをつないでいるバネが２㎜程度延びるよう調整してください。

調整後、ロックナットを確実に締め付けてください。

サイドクラッチ調整

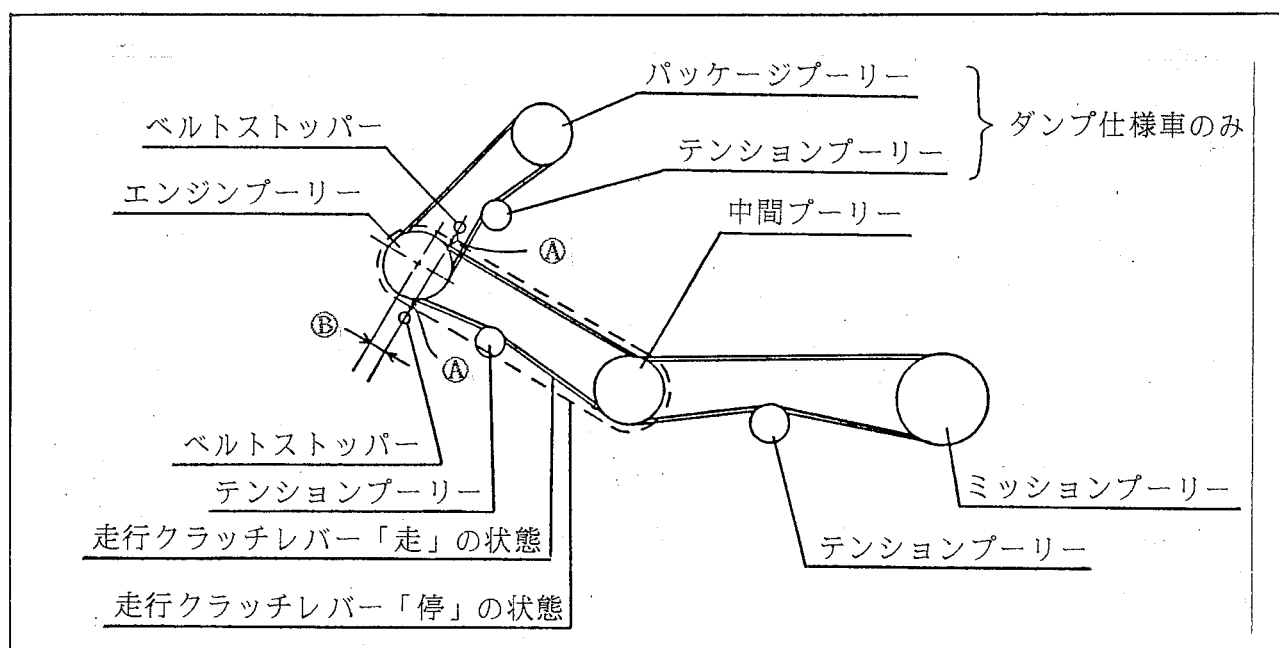
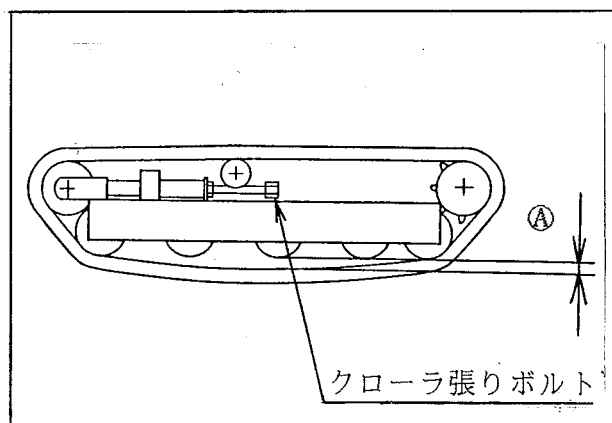
・サイドクラッチレバーに遊びが多くなった時は、ターンバックルにて調整してください。
（ミッション脱着時およびロッド類のオーバーホール時以外はほとんど調整の必要はありません）

※サイドクラッチレバーの遊びはレバーにぎり部で５～１０㎜程度とってください。

・サイドクラッチのきれが悪い時（サイドクラッチギヤが抜けていて尚且つクローラが止まらない場合）は、ブレーキアジャストボルトにて調整してください。

・ロックナットを緩めた後、ブレーキアジャストボルトをⒶの方向へ。
調整後、必ずロックナットを締めてください。

※荷台を上げて調整してください。

ベルトストッパー調整

走行クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパーの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパーを外した場合、以下のように調整してください。

ベルトストッパーは走行クラッチレバーが「走」の状態で、Ｖベルトとベルトストッパーの間隔Ⓐを５～６㎜程度に、Ⓑの間隔を１０～２０㎜程度にし、ダンプ仕様はパッケージＶベルトに当たらないようにセットします。

必ずエンジンを止めた状態で行ってください。
ベルトストッパーと他のＶベルトとのスキマを５㎜以上あけてください。
（走行クラッチレバーが「入」の状態にて）

クローラ張り調整

クローラは新しい間の初期伸び、スプロケットとのなれによる緩みが生じますので、クローラ張りボルトにて調整してください。
図のように運搬車を地面と平行に浮かせた状態でクローラと転輪のスキマⒶを１０～１５㎜とします。

バッテリー使用上の注意（セル付き仕様車のみ）

バッテリーは使い方によって寿命が極端に短くなったりする場合がありますので随時点検することが必要です。

（１）バッテリーの接続

・線をつなぐ場合はプラス（＋）を先につなぎマイナス（－）を後に、外す場合はマイナスを先にプラスを後で外すようにします。間違えるとショートによりバッテリーの損傷や、火災になるおそれがありますので御注意ください。

（２）長期保管する場合

・バッテリーは蒸留水を補充し充電した後、放電を防ぐため本機から外し、低温で乾燥した場所に保管してください。

・スイッチの切り忘れやエンストさせたままの放電等は、バッテリーを台無しにする原因となりますので御注意ください。

・バッテリーは使用しなくとも約６ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するのがバッテリーを長持ちさせる秘訣です。

（３）御使用にあたって

・バッテリー液はいつも基準線の内側にあるのが望ましく、基準線以下にならないよう随時蒸留水を補給してください。

・頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したらしばらく連続運転をしてバッテリーを充電してやるようにしてください。

格納

☆クローラの張りボルトを緩めてください。

☆各部を点検し、不良箇所等があれば必ず整備してください。

☆各部を油のしみた布で清掃し、回転摺動部には給油して湿気の少ない場所に格納してください。

☆クローラの下に板等を敷いてください。

☆走行クラッチレバー、駐車ブレーキレバーを「切」の位置にしてください。

☆エンジンについて（ガソリン車のみ）

・点火プラグ取付孔よりエンジンオイルを数滴注入し、クランク軸を数回回して点火プラグを取付け、圧縮位置で止めてください。

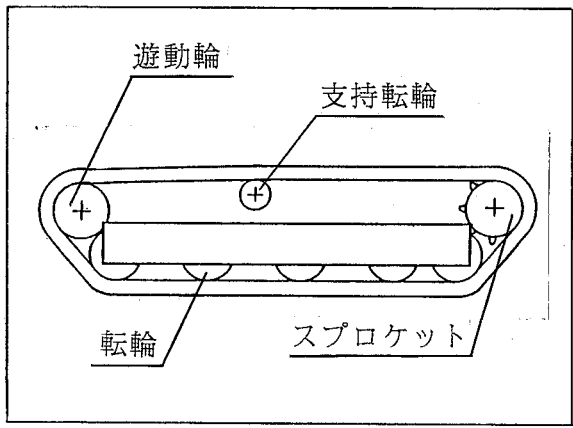
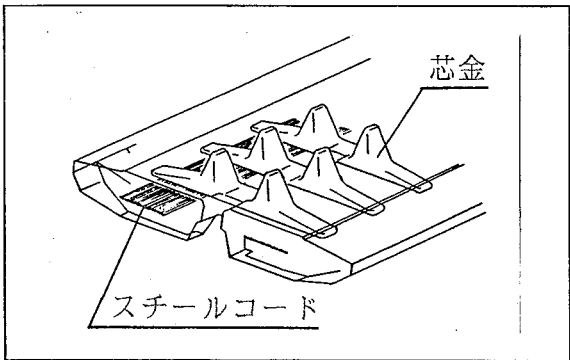
・気化器内へガソリンを入れたまま長期間放置するとガソリンが劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期間放置する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。

また長期間放置したガソリン、ポリタンク内のガソリンはなるべく使用しないでください。

定期自主点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。正常な機能を発揮し、いつも安全な状態であるように「定期自主点検表」を参考に点検を行ってください。

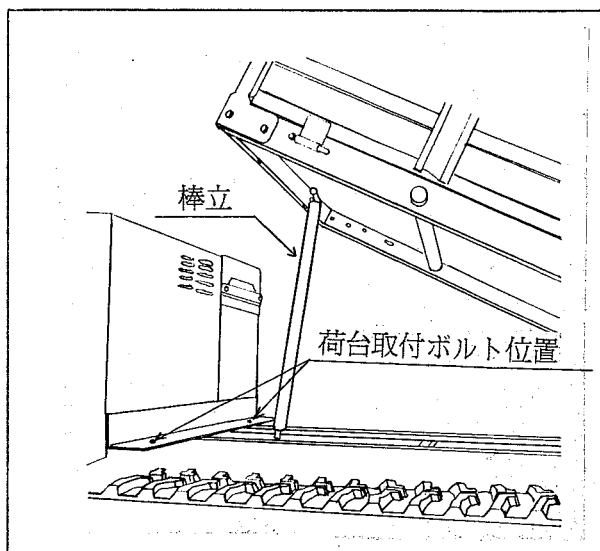
年次点検は１年に１回、月例点検は１ヶ月に１回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行うようにしてください。

項目		点検内容		点検時期		
				始業	月例	年次
原動機	本体	(1) かかり具合、異音	始動の際、容易に起動するか。	○	○	○
		(2) 回転数と加速の状態	回転速度を徐々にあげ、正常に滑らかに回転するか。	○	○	○
		(3) 排気の状態およびｶﾞｽ漏れ	排気色、排気臭および排気音は正常か。	○	○	○
		(4) ｴｱｸﾘｰﾅの損傷、緩み、汚れ	損傷なく、取付け部に緩み、著しい汚れはないか。		○	○
		(5) ｼﾘﾝﾀﾞｰﾍｯﾄﾞと各ﾏﾆﾎｰﾙﾄﾞ締付け部の緩み	ｶﾞｽ漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 [正常締付けﾄﾙｸで緩みはないか]			○
		(6) 弁すき間	[正規のすき間であるか]			○ *
		(7) 圧縮圧力	[正規の圧縮圧力であるか]			○ *
		(8) ｴﾝｼﾞﾝﾍﾞｰｽの亀裂、変形、ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み脱落および防振ｺﾞﾑの損傷、老化	ｴﾝｼﾞﾝﾍﾞｰｽに亀裂、変形はないか。 防振ｺﾞﾑに損傷、劣化はないか、またﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄに緩みはないか。	○	○	○
	潤滑装置	(1) 油量、汚れ	ｵｲﾙの量は適切か。 ｵｲﾙに汚れ、水・金属等の混入はないか。	○	○	○
		(2) 油漏れ	ｵｲﾙｼｰﾙ、ｶﾞｽｹｯﾄ部に油漏れはないか。	○	○	○
		(3) ｵｲﾙﾌｨﾙﾀｰの汚れ、目詰まり、損傷	著しい汚れ、変形、異物のかみ込みこう着はないか。			○
	燃料装置	(1) 燃料漏れ	燃料の漏れはないか。	○	○	○
		(2) 燃料ﾌｨﾙﾀｰの詰まり	著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。		○	○
	電気装置	(1) ﾊﾞｯﾃﾘｰの液量および端子の緩み	取付け部および端子部に緩みはないか、ﾊﾞｯﾃﾘｰ液の量は適切か。		○	○
		(2) 電気配線の接続部の緩み、損傷	ﾊｰﾈｽ接続は適切か、また緩み、損傷はないか		○	○
動力伝達装置	クラッチ	(1) 作動（ﾍﾞﾙﾄﾃﾝｼｮﾝの点検）	ｸﾗｯﾁ“走”、“停”の作動に異常はないか。	○	○	○
		(2) 異音	接触音はないか。	○	○	○
	Ｖベルト	(1) 緩み	ﾍﾞﾙﾄの張り具合は適切か。	○	○	○
		(2) 損傷、汚れ	亀裂、損傷、著しい汚れはないか。		○	○

＊販売店に御相談ください。但し、有料となります。

［　］内は参考とする。

処置・調整		参照ページ
タンク内の燃料の不足	給油	4
バッテリーの容量不足 (セルモータの起動力不足)	充電	17
配線の端子の外れまたは断線	接続または交換	−
スロットルワイヤーの折れ、サビ付き	交換	−
スロットルレバーの変形、損傷による作動不良	交換	
ガソリンエンジンの場合 黒煙を吐く ・チョークを閉じている ・エアークリーナが目詰りしている 白煙を吐く ・エンジンオイルが入り過ぎている ディーゼルエンジンの場合 黒煙を多量に吐く ・エアークリーナが目詰りしている ・燃料が悪い 白煙を吐く ・エンジンオイルが入り過ぎている	 全開に 清掃 オイル量調整 清掃 良質燃料に交換 オイル量調整	−
エンジンベースの亀裂・変形 防振ゴムの劣化・損傷 ボルト・ナットに緩みがある (図：防振ゴム、エンジンベース)	交換 交換 増し締め	−
不足 汚れが著しい	給油 交換	13
漏れがある	交換	−
漏れがある　燃料パイプ等の亀裂・損傷 燃料パイプクランプ部の緩み	交換 増し締め	−
クラッチの切れが悪い Vベルトが滑る	調整	14
テンションアームの作動不良（動きがかたい） ベルトストッパー調整不良	給油 調整	−

項目		点検内容		点検時期		
				始業	月例	年次
動力伝達装置	トランスミッション	(1)異音、異常発熱、および作動	作動に異常はないか、また異音、異常発熱はないか。		○	○
		(2)油量、汚れ	ｵｲﾙの量は適切か、また著しい汚れはないか。			○
		(3)油漏れ	ｵｲﾙｼｰﾙ、ﾊﾟｯｷﾝ部に油漏れはないか		○	○
操縦装置	ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾚﾊﾞｰ	(1)遊び、緩み、ｶﾞﾀ	ﾚﾊﾞｰの遊びは適切か、また取付け部に緩み、ｶﾞﾀはないか。	○	○	○
		(2)操作具合	ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁの効き等、作動に異常はないか。	○	○	○
制動装置	駐車ブレーキレバー	(1)効き具合	ﾌﾞﾚｰｷの効きは甘くないか。	○	○	○
	ﾛｯﾄﾞ、ﾘﾝｸ及びﾜｲﾔｰ類	(1)損傷、緩み、ｶﾞﾀ、割ﾋﾟﾝの欠損	著しい損傷および緩み、ｶﾞﾀはないか、欠陥部品はないか。		○	○
車体・安全装置等	車体	(1)亀裂、変形よおび取付けﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落	車体の亀裂、変形、ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み脱落はないか。		○	○
	カバー	(1)亀裂、変形、腐食	亀裂、変形、腐食、ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩みはないか。			○
	座席	(1)取付けﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落	取付け部の変形、損傷および取付けﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落はないか。			○
	手すり	(1)変形、損傷	著しい変形、損傷はないか。			○
	警報装置	(1)作動、取付けおよび損傷	作動に異常はないか、また著しい損傷はないか。	○	○	○
走行装置	スプロケット 遊動輪 転輪 支持転輪	(1)亀裂、変形、摩耗	著しい亀裂、変形、摩耗はないか。	○	○	○
		(2)軸部の異音、異常発熱	不連続音、異常発熱はないか。	○	○	○
		(3)取付け部ﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄの緩み、脱落	脱落、緩みはないか。	○	○	○
		(4)油漏れ	ｼｰﾙ部から異常な油脂の流出はないか。	○	○	○
	クローラ	(1)ｽﾁｰﾙｺｰﾄﾞの損傷、ｺﾞﾑの欠け、劣化摩耗、芯金の脱落	著しいｽﾁｰﾙｺｰﾄﾞの損傷、ｺﾞﾑの欠損劣化、摩耗、芯金の脱落はないか。	○	○	○
		(2)張り具合	ｸﾛｰﾗの張り具合は適切か。	○	○	○
変速装置	チェンジレバー	(1)操作具合	作動に異常はないか。 各変速位置に確実に入るか。	○	○	○
		(2)緩み、ｶﾞﾀ	ﾚﾊﾞｰおよびﾛｯﾄﾞの取付け部にﾈｼﾞの緩みまたはｶﾞﾀはないか。	○	○	○

処　置・調　整		参照ページ
遊びが大きい	調整	15
効きが悪い	ミッションのアジャストボルト調整	15
効きが甘い	ブレーキ調整	14
ホーンの配線の端子の外れまたは断線 セル付きエンジン　キースイッチ“入”時 セルなしエンジン　エンジン回転時のみ	接続または交換 ホーン作動 ホーン作動	−
損傷が著しい	交換	−
不連続音、異常発熱がある 分解後不良部品 またはアッセンブリー	 交換 交換	
緩みがある 脱落箇所	増し締め 取付け(購入)	
流出がある オイルシール またはアッセンブリー	 交換 交換	
スチールコード切断、芯金折れ、芯金とれの発生	交換	−
緩みまたは張り過ぎ	調整	16
レバー、ロッド類の作動不良（動きがかたい）　摺動部 緩みがある	給油 増し締め	−

〔油圧ダンプ以外〕

荷台下の点検をする場合は、荷台取付ボルト２本を外し、危険防止の為付属の棒立で左図のように確実に支えて下さい。

寒冷時の注意

冬期は、使用後必ず車体に付着した泥や異物を取り除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物が凍結して故障の原因となります。
（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくとより効果的です）
また、凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。
（無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特に御注意ください）

工具袋明細

No.	部品名	規格・寸法	個数	
			ガソリン	ディーゼル
1	取扱説明書		1	1
2	スパナ	30	1	1
3	エンジン工具	エンジン付属品	1	1

型式			BFK803			
			箱型荷台（ショート）		箱型荷台ダンプ	
			ガソリン GH250 GM290	ディーゼル DY35	ガソリン GH250 GM290	ディーゼル DY35
車体寸法 mm	全長		2190		2390	
	全幅		1040			
	全高		1210		1260	
履帯 mm	接地長さ		975			
	幅		250			
	中心距離		680			
荷台内寸 mm	長さ		1420		1620	
	幅		935			
	高さ		185		230	
床面高さ mm			510			
エンジン	連続定格出力		6PS/1800rpm	6.5PS/3600rpm	6PS/1800rpm	6.5PS/3600rpm
	最大出力		8～8.5PS/2000rpm	7.5PS/3600rpm	8～8.5PS/2000rpm	7.5PS/3600rpm
	始動方式		セルまたはリコイル			
車体重量 kg	セル付き		395	425	440	470
	セル無し		385	410	430	455
最大作業能力 kg			750			
最小回転半径 mm			1330		1515	
最低地上高 mm			160			
速度	段数	前進	3			
		後退	2			
	前進 km/h	1速	1.7	1.7	1.7	1.7
		2速	3.6	3.7	3.6	3.7
		3速	5.7	5.8	5.7	5.8
	後退 km/h	1速	1.7	1.7	1.7	1.7
		2速	3.6	3.7	3.6	3.7
クラッチ			ベルトテンション			
駐車ブレーキ			内拡式ブレーキ			
ｻｲﾄﾞｸﾗｯﾁﾌﾞﾚｰｷ			内拡式ブレーキ			
ダンプの機構			－		油圧ダンプ	
ダンプの角度			－		58°	
登坂能力(空車時)			25°			

※本仕様は日本国仕様です。
※本仕様は改良により予告なく変更することがあります。